

この井戸を掘ったのは九州の熊本県に土地を持った領主、加藤清正だと言われています。彼の藩は、江戸時代（1603～1867）にこの地域周辺に居を構えていました。この井戸からは一年中絶え間なく水が湧き出ていますが、水温は15度と一定しています。この井戸の水は菖蒲田に引かれ、南池を通り、さらに水門を抜けて南参道の橋の下をぐり、最後は渋谷川へと注ぎます。

澄み切った水を湛えるこの井戸は、強いプラスのスピリチュアルパワーがある神聖な場所だと考えられています。